



『毎日新報』 매일 신보 京城 毎日新報社 昭和20年8月15日

目次

経済学文献のメッカ(加藤 浩平)..... 2

シリーズ ムーサの神殿 貴重書紹介  
『毎日新報』・『ソウル新聞』と『新天地』(三枝 壽勝)..... 3

レファレンス紹介 インターネットを使って新聞記事を読もう!..... 4~5

教員エッセイ(田中 章喜・佐藤 暢・網野 房子)..... 6~7

図書館実習を終えて..... 7

図書館インフォメーション..... 8

「今村力三郎展」

業績と人柄

本学の戦後の復興に大きく貢献した元本学総長の今村力三郎は、明治・大正・昭和にわたって法曹界に多くの足跡を残した。その業績と人柄を、所蔵する訴訟資料などから辿る。

期間

平成17年12月1日(木)~平成18年1月31日(火)

場所

神田分館 1F



# 経済学文献のメッカ

加藤 浩平

ドイツ連邦共和国北部の都市キールにある「世界経済研究所」の付属図書館の紹介をしてみたい。正式の名称は「経済学のためのドイツ中央図書館」(ZBW)という。

キールの市街地には、フェルデと呼ばれる海(バルト海)の一部が細長い舌のような形で侵入している。ドイツ帝国が建国(1871年)され、帝国艦隊がここに創設されて以降、キールは軍艦建造の拠点となった。1895年には「北海・バルト海運河」も開通し、この町の世界海運上の重要性も増大した。キールには1665年、ホルシュタイン・ゴットルフ家のクリスティアン・アルブレヒト侯により創設された大学があったが、この大学に「国家経済学ゼミナール」が設置されたのは1899年のことであり、それをもとに第1次大戦の勃発する年に「王立海運・世界経済研究所」が設置された。設立を主導したのは当時ドイツの経済学界を代表する国民経済学者ベルンハルト・ハルムスであった。当時のキールには鉄鋼業のクルップが「ゲルマニア造船所」を買収して進出していたが、当主のアルフレッド・クルップはフェルデを望む市内の高級リゾート地に訪問客を泊めるヴィラを造った。ハルムスはこのヴィラを譲り受け、そこに研究所を移管した。

第2次大戦で町を徹底的に破壊されたキールは、今では往事の面影を見るべくもない。しかし経済学の勉強のためにドイツに行くとしたら、私はキールが最適であると思う。それは「世界経済研究所」のレベルの高さにある。ここの付属図書館は、その名前の通り経済学関連を中心に270万冊の蔵書と19,000点の定期刊行物(43%は電子化)を備え、経済学関連ではドイツ最大、世界でも特定分野の図書館として最大である。この図書館の目的は、全世界の経

済関連文献を収集、開拓するとともに、それをドイツ国民はもとより、世界中の人々(研究者に限らない)の利用に供することである。専修大学の学生であろうと、パスポートの提示のみで通常の利用サービスを受けられるのである。所蔵文献のほとんどはデータベース化(ECONISという名称)され、インターネットで、全世界からアクセス可能である。私は、過去3度この研究所を訪問し、文献の利用に与っているが、この間の図書館の急激な変貌に驚いている。まず、クルップの旧ホテルではさすがに手狭になり、正面左隣に独立した建物として図書館が増設された。荘重な雰囲気はなくなったが、これは致し方ない。もっと驚いたのは、図書の閲覧、貸出し、返却、自習室での勉強といった通常の図書館の利用風景が消滅したことである。2階サービスカウンター前のホールに50台ほどのインターネット利用端末が置かれ、利用者はここに数時間座っている。研究対象が単行本ではなく、専門誌の最新論文、官公庁、研究所の調査報告の類となり、それらの多くは電子情報化されているため、コンピューターの画面上でそれを読むか、必要箇所をプリントアウト(無料)するのである。そのため隣室のプリンターがフル稼働している。稀に行う本の貸出しもコンピューター発注であり、20分程待つて貸出しを受けると、即座に必要な箇所をコピーしてしまう。フェルデを望む快適な広い自習室の机に終日座って分厚い本を読んでいたのは私だけであった。

(かとう こうへい：経済学部教授)



クルップのヴィラ(戦前の風景)



現在の世界経済研究所(正面右側)と付属図書館(左側)



ムーサの神殿:

ムーサ(ミューズ)とは、ギリシャ神話で学問や芸術などあらゆる知的活動を司る9人の女神たちのことです。「ムーサの神殿(ムーセイオン)」は、美術館、博物館、図書館を表しており、ミュージアムの語源となっています。

古代エジプトの首都アレクサンドリアにつくられた総合学術機関「ムーセイオン」は、これに由来しており、その付属図書館が世界最古の図書館といわれています。

『毎日新報』・『ソウル新聞』と

매일신보

서울신문

『新天地』

신전지



三枝 壽勝

この100年、韓国が激動の連続であったとはいえ、『毎日新報』ほど題名や発行者、そして内容がめまぐるしく変わった例はほかにはなさそうです。1904年に英国人裴説こと E.T.Bethellが編集兼発行人として『大韓毎日申報』を発刊しましたが、内容が韓国に進出していた日本に批判的だったので、日本はしきりに干渉をおこない、ついに1910年、朝鮮が植民地となったとき、朝鮮総督府の機関紙とされ、名前が『毎日申報』と変ります。その後は植民地時代を通して日本語紙『京城日報』とともに総督府の機関紙として機能しますが、大陸での戦争が本格的になった1938年には『毎日新報』と改題されました。『東亜日報』や『朝鮮日報』が廃刊された1940年以後、日本の敗戦までは唯一の朝鮮語新聞でした。

1945年8月15日以後は、朝鮮人の手で自主管理による発行が続けられますが、11月10日になり占領軍の軍政長官命令で停刊処分をうけ、新たに11月22日から『ソウル新聞』として再出発します。この時期、すでに『中央新聞』『自由新聞』などが発行され

ており、『東亜日報』『朝鮮日報』も復刊しますが、『ソウル新聞』は当時の激烈な左右の対立のなかで比較的穏健な立場をとります。それでも今ではかなり左翼的に感じられるのは、当時の雰囲気せいかもしれません。しかし冷戦による米ソの対立と、三十八度線の分断による南北の対立のもとで、中間的な立場は許されず、多くの知識人が北を選んで逃れました。そして1948年に南北でそれぞれ政府が樹立されたその翌年の1949年には最終的に発行を停止されます。1950年の朝鮮戦争の時期の休刊を経て再刊されますが、この頃にはすでに政府の御用紙

としての色彩が濃厚で、性格は変わっていました。そのため、1960年4月の学生達による反政府民主化要求デモの際には、新聞社が焼き打ちにあい、それまで保存されていた全ての資料が焼失してしまいます。それだけでなく植民地支配の道具というイメージで、保存に力が注がれなかったうえ、残る資料が全面的に消滅してしまい、一層接し難い資料となってしまいました。その後も『ソウル新聞』の紆余曲折が現在まで続きますが、それは今回紹介の資料とは関係がないので省略します。

本学に架蔵された『毎日新報』・『ソウル新聞』は1940年から1947年という日本の敗戦をはさんだ短い期間のものであるうえ、欠けた部分がかかり多いので資料としては完璧なものとはいえないかもしれません。しかし文学でいえば1944~45年植民地時代に完結した小説としては、最後の作品である蔡萬植の「女人戦記」が含まれていることなどが注目されます。『ソウル新聞』の場合は、本国でも現在は閲覧できる場所がないようなので、本学の資料は実際の姿を直接

知ることができる唯一のもの、ということになりそうです。

さらに同時に架蔵されることになった総合雑誌『新天地』も同じソウル新聞社の発行ですが、こちらは新聞と違って当時の論調や社会や思想の動きをより詳しく知ることができる点では、『ソウル新聞』よりもっと資料的価値があるかもしれません。1946年から朝鮮戦争まで、重要な時期のものがほとんど揃っていて、文学を始め多様な内容が含まれているので、この時期の研究に大きく役立つのではないかと思います。

(さえぐさとしかつ：ネットワーク情報学部兼任講師)



『ソウル新聞』서울신문 13738號  
서울신문社1945年11月23日



『新天地』신전지  
서울신문社1946年3月、4月



# インターネットを使っ

Q君



図書館に行けばインターネットで新聞記事が読めるって聞いたのですが、本当ですか？

アメリカのハリケーン「カトリーナ」の記事を探しているのですが…

図書館員

Aさん

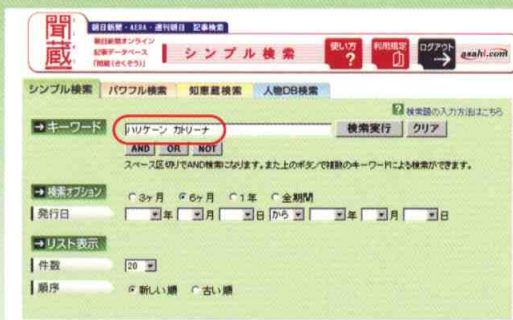


外部データベースを使えば、インターネット経由で新聞記事を探して読むことができますよ。

## 1. 朝日新聞を調べる

### 聞蔵 (きくぞう) DNA for Librariesを使う (朝日新聞オンライン記事データベース)

学内LANに接続されたパソコンで、図書館のホームページ (<http://www.lib.senshu-u.ac.jp/>) の「外部データベース」の項から「聞蔵DNA for Libraries」にアクセスします。



■聞蔵 DNA for Libraries 及びこれに含まれる記事・データの権利を認めます。すべての権利は日本著作権法及び国際条約に基づいて保護されています。著作権について不明な点がある場合は、聞蔵DNA for Libraries 及びこれに含まれる記事・データは、利用者のみが個人としてのみ利用に限定し、複製、転載、転送、転用、改変、再配布、転載、転送、転用、改変、再配布、転載、転送、転用、改変、再配布の権利を放棄する使用は一切できません。また、第三者のプライバシー、名誉その他の権利を侵害する行為は、何れも一切できません。 Copyright 2005 AsahiShimbun. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.

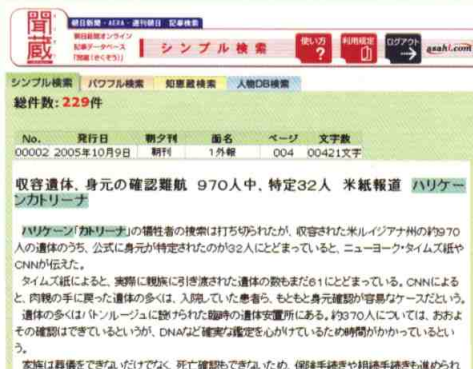
© 朝日新聞社

検索結果  
229件



わあ、いっぱいありますね～この記事を読んでみたいです！

これはすごい！全文を読むことができますね！





# て新聞記事を読もう！

## 2. 日本経済新聞、日経産業新聞、日経流通新聞(MJ)、日経金融新聞を調べる

### 日経テレコン21を使う

本館、生田分館、神田分館、法科大学院分館の各情報検索コーナーで利用できます。

日経四紙からも探してみよう。

「ハリケーン カトリナ」の検索結果は 399 件です

- 見出し 日付, 時間, 媒体, 掲載ページ, 絵・写・表, 文字数, スコア
- 英ロイスCEO、「再保険料率の引き上げ当然」——保険会社の反発 必至。 \*2005/10/10、日本経済新聞 朝刊 7ページ、498文字、スコア:84
- 製油所新設支援、米下院が法案可決——認可手続きを簡素化。 \*2005/10/09、日本経済新聞 朝刊 4ページ、536文字、スコア:74
- 宇都宮 横田さん、予想的中(中ダービー) \*2005/10/09、日本経済新聞 朝刊 27ページ、有、864文字、スコア:73
- ハリケーン被害、総額700—1300億ドル——米議会予算局見通し**

この記事を読みたいです

ハリケーン被害、総額700—1300億ドル——米議会予算局見通し。  
2005/10/08、日本経済新聞 朝刊 7ページ、165文字

PDFをクリックすると新聞と同じイメージで見ることができるのですね。さっそくこの記事を使ってゼミで発表しよう!

この記事を、フロッピー・ディスクにダウンロードして、自宅のパソコンでゆっくり読んでもいいですか?

聞蔵と日経テレコン21は、データベースの会社からダウンロードは許可されていないんだよ。自宅でゆっくり読みたい場合は、**プリントアウト**して持ち帰ることが出来ますよ。

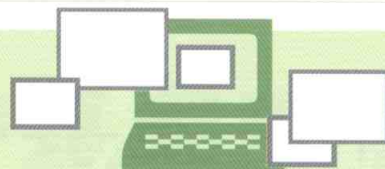
こちらもおすすめ LexisNexis Academic

学内LANに接続されたパソコンで、図書館のホームページ (<http://www.lib.senshu-u.ac.jp/>) の「外部データベース」の項から「LexisNexis Academic」にアクセスします。「The New York Times」「USA Today」「The Washington Post」「The Times」「The Financial times」など、米国を中心に、世界各国の英文の新聞記事を収録・キーワード等で検索することができます。



## 検索システムの効用

田中 章喜



以前は特別な文献目録がない限り、どこにどのような資料があるかを調べるだけでも、個々の図書館に行って、そこにあるカードを調べるしかなかった。もちろん、図書館カードは、分類別のもはまったくといっていいほど役にたわず、結局、著者名別、書名別の二つのカードしか使えなかった。だから、著者名か書名が分からなければ、自分の研究テーマに合致した資料を探し出すことは非常に困難をきわめた。

しかし、世のIT革命は図書館システムを格段に進歩させた。現在では、わざわざ個々の図書館に出向かなくても、自宅にいながらにして、個々の図書館の資料を検索することが可能となった。コンピュータでの文献検索は、キーワードによるクロスリファレンスが可能であり、著者名や書名を知らなくても、自分の研究テーマにそった資料を簡単に探し出すこともできるようになった。さらに、日本はもちろんのこと、世界の図書館や文書館の資料検索すら、なんと自宅で可能となった。しかも、それぞれの図書館や文書館が所有する貴重な資料のウェブ上での公開もしだいに増え、インターネットさえ接続できる環境があれば、いとも簡単に世界中の貴重な資料を入手することが容易になった。なんと便利な世の中である。

しかし、これほどまでに図書館や文書館の検索システムが便利になっても、以前より格段にすぐれた論文が量産さ

れるようになったかという疑問である。

実際、すぐれた情報検索システムを十二分に理解し、利用している者は意外と少ないのも事実である。もっとも有名なNACSIS Webcatを利用するだけでも、日本のどの研究機関がどのような文献資料を所有しているかが分かるにもかかわらず、それを利用することもなく、発行元に文献資料を発注したりすることしばしば見受けられる。便利なシステムとはいえ、やはりシステムそのものを理解しなければ、情報検索システムはまったくの絵に描いた餅になるといってよい。

しかし、検索システムを十分に理解し、利用したとしても、さらなる問題が存在する。実際、資料収集が容易になったとはいえ、今までとは違って、過剰な量の資料と情報に埋もれて、悲鳴をあげるしかないのが現状かもしれない。結局、文献や資料が山ほどそろうようになったといっても、最終的に研究成果にまとめるのは、研究者個人の論理的思考力と創造力であり、そちらの方は図書館システムと比べて、この間、進歩が見られたかというといささか心もとない。

ともあれ、すぐれた図書館システムをいかすも殺すも、それを利用する個々人の力量にかかっていることは確かである。自戒の言葉としたい。

(たなか あきよし：経済学部教授)

## 教師をギャフン(死語)と言わせよう

佐藤 暢



自然科学系の論文やレポートは、たとえ学部生のレポートでも、自分が実験したデータに基づいて書くので、卒業研究のために研究室に配属になるまで、図書館で文献検索をした記憶はあまりない。卒業研究も、野外観察や試料分析、実験が中心だったし、関連する論文は先生の本棚から勝手にコピーしていればそれで十分だった。事情が一変したのは、大学院に入ってからである。教授に「教師をギャフンと言わせなければ、学位は出せない」と言われたのだ。さてそうなると、教授の本棚のものを読むだけでは済まない。それは全て教授が知っている内容である。教授が知らない、まだ読んでいない論文を探してきて、ネタを見つければならない。更に「修士は日本初、博士は世界初を必ず含むように」と言われた。とたんに競争相手は、世界の研究者に広がった。

それ以来、図書館通いが普通になった。当時は、ようやく大学からインターネットに接続できるようになった頃で、学術雑誌のサイトもほとんどなかった。新着雑誌のコーナーに行き、目次を調べ、斜めに読む。使えそうなら、コピーをと

って、知らない単語や、自分の論文に使えそうな表現もついでに抜き出しながら読む。そこから手繰って、別の論文を探す、ということを繰り返した。データベースも完備されていなかったから、まだパソコン通信であったNiftyから、確か日外アソシエーツにアクセスして、自腹を切って論文を取り寄せたこともある。

そう考えると、最近の文献検索事情はすばらしい。何か新しいテーマを考え付いたら、キーワードをGoogle scholar (<http://scholar.google.com/>)にぶち込んでみる。普通のGoogleと違って、学術論文がヒットする。そこから手繰れば、運がよければ論文をダウンロードできるし、大学が契約している雑誌なら、Science Directなどからダウンロードができる。PDFをパソコン上に保存して、自分自身のデータベースもすぐ作れる。問題は読む時間が足りないことである。

図書館の使い方はそれぞれが、試行錯誤して自分で見つければよいと思う。さあ、教師をギャフンと言わせよう。

(さとう ひろし：経営学部助教授)



## 図書館利用のすすめ

網野 房子



『図書館に訊け!』には次のような指摘がある。「図書館利用の巧拙を決める最終的なポイント」になるのは、利用する側の「モチベーションの持ち方」であり、「いつも素通りしてしまう書棚の前でも、何か自分が新たなテーマやモチベーションをここに宿したとき」、自分自身が「オーラを発し」、「その気配を感じて資料の方も前に乗り出してくる」(注1)という。その通りだと思う。

でも、論文やレポートの書き方を教えるいわゆる書き方本や、図書館の利用方法や検索方法を教える技術本は、世の中に数えきれないほどあふれていても、レポートを書く時のモチベーションをどのようにつかむのか、テーマをどのように見つけるかについては、そうした類の本は教えてはくれないのである。

テーマは、大学の講義で見つかることもあれば、一冊の本との出会いによって決まることもあるが、たとえ決定的なテーマがすぐにみつからなくても、どんなに小さくても自分の興味を引く事柄から出発して、それに関する関心を膨らませてゆけば、いつしかそのテーマははっきりとした形になってゆくだろう。ほんやりとでもテーマが見つければしめたものだ。そこから先は論文の書き方本、文献検索やインターネット利用に関する技術本が役に立つ。関心のふくらませ方は、例えば、『論文の教室』(注2)の第3章と第5章などがヒントになるし、文献の集め方、検索の仕方は、冒頭にふれた

『図書館に訊け!』(注1)などが参考になるだろう。

テーマを模索する段階でヒントになるのは書物だけに限られず、フィールドに出て得る経験知も重要だ。でもここでは述べられないので書物に限れば、例えば、大学や出版社が特集する読書案内や、好きな作家や研究者、識者の読書論や評論に注目してみよう(注3)。また事典類も、調べるだけでなく「読む」ことでいろいろなアイデアを膨らませることができる。最近出版された異色の事典、『文化人類学文献事典』『日本史文献事典』『社会学文献事典』(弘文堂)は、対象が専門書ではあるが、通読するとまるで図書館を経巡るような経験ができる貴重な事典だ。

注1) 井上真琴『図書館に訊け!』ちくま新書、2004年、24-25頁。

注2) 戸田山和久『論文の教室-レポートから卒論まで』日本放送出版協会、2002年。

注3) 読書案内の一例として、他大学のもので残念だが「大学新人生に薦める101冊の本」(広島大学総合科学部101冊の本プロジェクト、岩波書店、2005年)や『教養のためのブックガイド』(東京大学出版会、2005年)等や、『学問がわかる500冊』(1・2、朝日新聞社、2000年)、富山太佳夫『書物の未来へ』(青土社、2003年)、立花隆『ほくはこんな本を読んできた』(文春文庫、1999年)を挙げておく。

(あみの ふさこ：法学部助教授)

## 図書館実習を終えて

司書資格取得を目指す2名の学生が、  
本学図書館で10月に2週間の実習を行いました。  
実習を通しての感想文を紹介します。



左から片村さん、小林さん

文学部日本語日本文学科4年 小林 沙織

実習前と実習後の図書館の印象は大きく変わった。本がどのように処理され利用者へ届くのか、利用しやすいよう蔵書点検を日々行っていることは普段知りえないことだったし、職員の方々の意識の高さと図書館に対する熱意を強く感じた。平成16年より開館した法科大学院分館は本館や神田分館とは違った実務に近い情報を提供し、より専門性に優れた図書館で利用できる機会があまりないことを残念に思ったほどである。そして実習を通して最も変化したことは「図書館をもっと利用してほしい」と思うようになったことである。2週間という短い期間であったが、楽しく充実した実習ができた。指導にあたってくださった職員の方々には改めてお礼を申し上げたい。

文学部英語英米文学科4年 片村 瞬

図書館実習を終えて最も感じた事は、自分の想像していた図書館の仕事と実際の図書館の仕事には大きな差があったという事である。図書館ではカウンター業務の人以外に接する機会がないため、大抵の場合、図書館の仕事=カウンター業務と考えがちではないだろうか。もちろんカウンター業務は図書館の顔ともいえるべき重要な業務であるが、あくまでもカウンター業務は図書館の仕事の一部であるという事を実習を通して学んだ。カウンターの奥では利用者のために本や雑誌を発注し、整理し、管理する業務を担っている人が大勢いる。目に見えない所で実に様々な業務が行われていた。とても貴重な体験をさせて頂いた事、そして、実習生の私達を快く受け入れて下さった図書館の皆様には本当に感謝している。



# 図書館インフォメーション

## < 図書館カレンダー >

12月							1月							2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4				1	2	3	4
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	5	6	7	8	9	10	11
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	12	13	14	15	16	17	18
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	19	20	21	22	23	24	25
25	26	27	28	29	30	31	29	30	31					26	27	28					26	27	28	29	30	31	

開館時間： 無印 本館・生田分館 月～金 9:00～21:00(土曜日は19:00)  
 神田分館・分室 月～土 9:00～22:00  
 ★印 本館・生田分館 月～金 9:00～17:00(土曜日は12:00)  
 神田分館 月～土 9:00～20:00  
 神田分館7号館分室 月～金 9:00～19:30(土曜日は14:30)  
 本館・神田分館 日 10:00～17:00(生田分館・神田分館7号館分室は休み)  
 休館日： 全館休館 A 本館・生田分館休館 B 神田分館・分室休館

※開館時間の変更および臨時の開館日・休館日は、その都度ホームページや掲示で案内します。  
 ※法科大学院分館の開館情報はホームページや掲示をご覧ください。

## < お知らせ >

### ■ 学部試験前における日曜開館

後期・学年末試験前に次のとおり日曜開館を行います。  
 ぜひ、ご利用ください。  
 対象館： 本館・神田分館  
 開館日： 平成17年12月4日、11日、18日、25日  
 平成18年1月15日  
 開館時間： 10時～17時

### ■ 12月から3月の日曜・祝日以外の休館日

- 全館(法科大学院分館を除く)
- 12月27日(火)～1月7日(土)冬期休暇期間
- 1月21日(土)大学入試センター試験 本館・生田分館のみ
- 2月1日(水)地区入学試験
- 2月9日(木)～2月14日(火)一般前期入学試験期間
- 2月28日(火)一般後期入学試験
- 3月4日(土)二部入学試験 神田分館・神田分館7号館分室のみ
- 3月22日(水)卒業式(学部)・学位記授与式(大学院)

### ■ 学部学生対象教員推薦図書の出出停止

12月1日(木)から1月31日(火)までの期間は、学部試験にかかわり学部学生対象の教員推薦図書の貸出はできません。  
 館内で利用してください。

### ■ 冬期・春期特別貸出

	冬期	春期
取扱期間	平成17年12月7日(水)～12月22日(木)	平成18年1月27日(金)～3月18日(土)
貸出対象者	学部学生(聴講生、科目等履修生を含む)	
冊数	10冊まで(通常の貸出冊数と同じ)	
返却期限日	平成18年1月12日(木)	平成18年4月7日(金)

### ■ 教員推薦図書の継続確認

平成17年度までに推薦された教員推薦図書を18年度も継続設置するかどうかの確認を行いますので、ご協力をお願いします。  
 ●確認方法  
 確認リストを送付しますので記入してください。  
 ●対象者  
 専任教員、非常勤講師のうち平成17年度までに教員推薦図書(学部、大学院)を推薦した教員。  
 ●回答締切日 平成18年1月31日(火)  
 ※詳しくは掲示等をご覧ください。

図書館では、利用者の個人情報等を本人の同意なく第三者に提供することはありません。

### ■ 卒業年次生・大学院修了年次生の皆さんへ

卒業年次生・大学院修了年次生の返却期限日は次のとおりです。  
 返却期限日：平成18年3月3日(金)  
 毎年、図書を借りたまま卒業する利用者に大変困っています。図書館の本は個人の所有物ではありません。在学生に迷惑がからないように、図書館から借りている図書について、確認をお願いします。  
 紛失、問合せ等はカウンターで受け付けます。

### ロシア語図書資料の検索について

2005年12月から、OPACでロシア語図書資料の検索ができるようになりました。WebOPACの「多言語データの検索方法」をクリックすると詳しい説明が見られます。館内での検索については、カウンターにお問合せください。

## 専修大学図書館だより 第57号

発行日：2005年12月1日  
 編集・発行：専修大学図書館 (館長 大庭 健)  
 専修大学図書館 本館 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1 〒214-8580 Tel.044-911-1274  
 生田分館 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1 〒214-8580 Tel.044-911-7138  
 神田分館 東京都千代田区神田神保町3-8 〒101-8425 Tel.03-3265-8339  
 法科大学院分館 東京都千代田区神田神保町3-8 〒101-8425 Tel.03-3265-6914  
 神田分館7号館分室 東京都千代田区神田神保町3-8 〒101-8425 Tel.03-3265-6366  
 専修大学図書館ホームページ URL：<http://www.lib.senshu-u.ac.jp/>